

## 官民の役割分担に関する情報の経済学からのアプローチ

福岡大学 石坂 元一

情報の非対称性から生じる問題を扱う際には、しばしば保険市場が取り上げられる。とりわけ医療保険市場においては、次の二つの意味で情報の非対称性が重要視されよう。一つは、そもそも医療サービス自体、他の財・サービスより需給者間の情報の非対称性が大きい。この点は医療保険においても同様である。もう一つは、医療保険市場の登場人物が、少なくとも契約者（加入者）、保険者（私人・公法人）および医療サービス提供者の三者存在している。

情報の非対称性から生じる問題とは具体的には、よく知られた逆選択とモラルハザードが挙げられる。これらについて保険市場を対象に分析した先行研究は国内外で数多く見られ、情報の経済学、医療経済学、社会保障分野等でしばしば論じられている。そこでは、逆選択が問題となる時、わが国では強制加入が義務付けられている公的医療保険をはじめとして、政府の介入が正当化されることがある。しかし、強制加入であってもモラルハザードの問題は完全には回避されない。ゆえに官民の役割分担について、二つの問題を同時に解消するような最善の解は存在せず、いくつかの基準の下での次善の解がそれぞれ提示されている。基準を設ける際のキーワードは公平性と効率性の二つであるが、これらはしばしばトレードオフの関係にある。

本報告では、医療保険市場における保険者と契約者（加入者）間の情報の非対称性に絞り、そこから生じる逆選択やモラルハザードの問題を整理し、官民の役割分担を論ずることを目的とする。具体的には、公的医療保障制度の意義や、ある基準の下での望ましいカバー領域を論ずる。

【平成 25 年度大会】  
共通論題  
報告要旨：石坂 元一

本報告の構成は次の通りである。

まず、情報の非対称性に起因する二つの問題を、簡素なモデルを用いて明らかにする。

1. 完全情報の下での契約者（加入者）の最適契約を求める。

2. モラルハザードに関して、保険事故の頻度と強度、余剰それぞれの観点から医療保険の影響を示し、契約者に定額・定率負担を課すことにより各項目とも改善が見られることを示す。

3. 逆選択に関しては、結果として引き起こされる市場の崩壊、および対処策の一つであるスクリーニング（自己選抜）を促す分離均衡を説明する。

次に、公的医療保障制度を意識して、平均保険料を適用した強制保険を、前節までと同様の図を用いて整理する。前述のように、これは逆選択の解消そして医療アクセスの公平性から見て有効であることが明らかである。しかしながら、非効率やモラルハザードの問題は残る。

最後に、官民の役割分担を決定する手掛かりとして、効率性と公平性のそれぞれの観点から、既存研究を整理する。ここで公平性の尺度としては社会的厚生（関数）を採り上げる。また、わが国の公的医療保障制度と関連付け、そこから知見を得ることを試みる。

< 参考文献（一部） >

- Akerlof, G. (1970), "The Market for Lemons," *Quarterly Journal of Economics*, 84, pp.488-500.
- Neudeck, W. & K. Podcizek (1996), "Adverse Selection and Regulation in Health Insurance Markets," *Journal of Health Economics*, 15, pp.387-405.
- Rothschild, M. & J. Stiglitz (1976), "Equilibrium in Competitive Insurance Markets: An Essay on the Economics of Imperfect Information," *Quarterly Journal of Economics*, 90, pp.629-649.
- Zweifel, P. (2000), "The Division of Labor between Private and Social Insurance," in Georges Dionne eds., *Handbook of Insurance*, Kluwer Academic Pub., pp.933-966.